

キャンパスにおける自然環境教育の実践

フィールド科学系部門 生物科学班
塩路 恒生

1. はじめに

日本の大学の中でも有数の広さを誇る広島大学東広島キャンパスは、自然豊かなエコキャンパスとして知られています。また、キャンパス中央部の谷あいには統合移転する前から形成されていた里地生態系が残されており、約30種の絶滅危惧種を含む、多様な生物が生息・自生しています。このような里地生態系は長く継続的に行われてきた里山管理により守られてきた貴重な自然環境であり、生物多様性の意味が問われている現在において、この自然環境を活用した環境教育は非常に有意義なものと考えます。そこで、理学研究科植物管理室に勤務している私が、キャンパス内で実践している自然環境教育の事項を紹介します。

2. 環境整備と情報公開

(1) 自然環境の維持

キャンパスの自然生態系を維持するために定期的に巡視・観察を行い（毎月1～5回程度）、状況に応じて草刈り・樹木の手入れなどの作業を植物管理室のスタッフによって行っています。希少な種が生育している箇所については、



特に慎重に管理を行っています。また、大学事務を通じ、キャンパス内の里山管理の依頼・助言を行っています。

(2) 情報公開

生態実験園入口に掲示板と資料配布箱を設置しています。ここでは、パンフレットやガイドブックなどにより来園者に季節の情報などを知らせています。



キャンパス植物の開花フェノロジーや写真データなどを収集し、大学の広報グループや総合博物館に資料を提供しています。

キャンパスぶらり散歩・花ごよみ

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/intro/sanpo/hana-goyomi/>

大学の環境管理専門委員会委員として大学の環境問題に取り組んでいます。また、委員会

ro/
[kankyo/environmental_report_2010.pdf](#)

植物管理室のHPを作成・管理し、生態実験園での季節の情報・キャンパスの自然環境

について公開しています。

植物管理室 HP

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tshioji/>

3. 環境教育の実践

(1) 幼児教育（食育）

1995年より、生態実験園内の水田において、広島大学付属幼稚園の園児による稲作り体験を実施しています。この体験により、子供たちは、自分たちが日ごろ食べているお米について、さまざまな知識を得ます。また、水田の周りの小川での川遊びや草花遊びなどにより、食物の育つ環境について感じとります。



田植え 2010.5.26



稲刈り 2009.10.30

(2) 教養教育

教養教育科目「東広島キャンパスの自然環境管理」の授業において、生物生産学部の実岡寛文教授の指導のもと、大学一年生を対象にキャン

パスの自然の魅力や自然環境の維持・管理について解説しています。

授業後に毎回アンケートを実施していますが、多くの学生からキャンパス内にたくさんの植物や鳥がいることに驚いたという意見を得ています。また、初めてキャンパスにこのような自然があることを知ったという回答も多数あります。さらに植物の名前がわかってよかったという意見・水鳥を見て感動したという意見も毎回あります。このように、キャンパスの学生は自分たちだけでは、講義室や各種の施設のみを利用することが多く、キャンパスの自然にまで目を向けることは少ないようです。しかし、何かのきっかけがあれば、キャンパスの自然にも興味をもち、感動をすることができます。



2009.4.20

(3) 生物観察

キャンパス内ビオトープ（ふれあいビオトープ）において、主に幼稚園児・小学生を対象に動植物、特に水生生物を採集・観察することにより生き物との触れ合いの場を提供しています。子供たちや保護者は、実際に自分の手で生き物に触れることにより、命の大切さ・自然の大切さを学びます。外来生物についての正しい知識を伝え、生態系のバランスについて理解を促しています。さらには、自分たちの身の回りの自然環境について考えるよう指導しています。



2010.8.10

参照：「ピオトープで遊ぼう」実施報告
広島大学技術センター報告集第3号 :52-56
広島大学技術センター報告集第5号 :74-78

(4) 希少植物の保全

平成21年6月，生態実験園・キャンパス敷地内のため池などにおいて，私が所属している東広島自然研究会が，希少植物サイジョウコウホネの学習会を実施しました．ここでは，サイジョウコウホネの基礎知識及び保全についての討論をしました．これらの学習会は，自然環境に対する正しい知識や考えかたを地域住民の方々に伝え，それぞれの地域において，実際に自分たちに何ができるかを考える場となることを目的としています．



2009.6.7

このほかにも，キャンパス内の自然環境では，ギフチョウ，ハッチョウチョンボ，ササユリ，サギソウ，イシモチソウなど様々な希少種の保全について活発な議論が行われています．

(5) キャンパスの自然活用

平成22年11月にががら山で広島大学総合博物館の企画として『ががら山に夢を描くワークショップ』を行いました．東広島キャンパスのシンボルともいえる“ががら山”の活用について，参加者とさまざまな意見交換を行いました．結果として，“ががら山”を大学としての活用だけでなく，地域と一体化した活用ができるようにするには，どのようにすべきかを今後考えていく必要があると感じました．



ががら山



ががら山より望む西条の町並み

4. おわりに

キャンパスの自然環境を維持・管理していくには、キャンパスにいる教職員・学生のみなさんの意識が非常に重要です。これらの豊かな自然環境はどここの大学にもあるものではありません。この恵まれた環境をぜひ大切にし、有効に利用していきたいものです。そして、地域に親しまれる大学になればと願います。

謝辞

これらの企画を実施するにあたり、ご協力いただきました広島大学技術センター職員の皆様に、深く感謝いたします。この活動は、平成21年度奨励研究（キャンパス内里地生態系を活用した環境プログラムの開発：課題番号21906032）により、効果的に行うことができました。御礼申し上げます。